

五條代官と大坂屋長兵衛

五條代官（第八代）竹垣直道



竹垣の描いた松茸
「大坂代官竹垣直道日記」
関西大学なにわ・大坂文化センター
一発行 より

竹垣は大坂代官になり、藤岡家貴賓の間のふすま絵を描いた百襲（丈）という画家に天保山の川浚いの風景や谷町官舎の絵を描かせている。

天保十五年 九月四日 曇又晴

和州宇知（智）郡近内村

山中江生立候よし（さんちゅえはえたちそうろうよし）

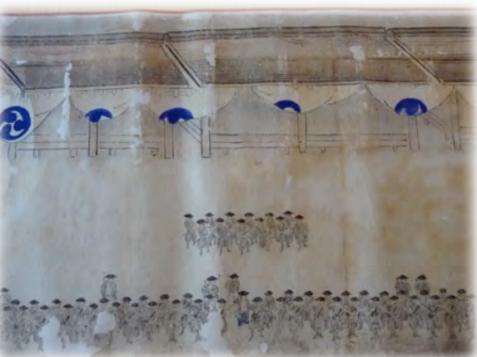
松茸壺根呉圖の如し（まつたけいっこんくれ ずのごとし）

珍敷もの二付 明日龍太郎持参 贈候積二而

（めずらしきものにつき あすりゅうたろうじさん
おくりそうろうつもりにて）

口上書認メ置（こうじょうかきみとめおく）

『竹垣直道日記』



吉野川原 鉄砲稽古の図（藤岡家所蔵）

最後の五條代官中村勘兵衛が江戸の末期、五條の中心部を貫流する吉野川の川原に宇智郡の150人の人々を集め、大砲を2台用意し、大掛かりな鉄砲の稽古をさせている。幕末と明治維新の時代を、五條の人々がどう過ごしていたのか。近内大長（大坂屋長兵衛）の記録は、どこか明るい風景を今に伝えている。藤岡家内蔵に埋められていた貨幣と共に展示室2階にて展示中。

慶応三年五條代官中村勘兵衛

宇智郡の村々

より兵を募りて鉄砲の稽古

藤岡長一郎は二十一歳

此内の一人ナリ



藤岡長兵衛木像

福德寺（近内）に安置された
長兵衛座像 文化10年
橋本 ちょうちん屋吉之助作



五條代官（第十四代）中村勘兵衛